

「オープンキャンパス・神大フェスタの感想」

人間科学科 2年 小畠 摩希子・横川 友里

箱庭とは

箱庭療法とは、心理療法の一一種です。縦57cm×横72cm×高さ7cmの内側が水色に塗られた箱の中に砂が入っていて、砂をよけて水を表現したり、砂をよせて山を表現したりできます。また、人や動物、建物、植物などたくさんのミニチュアがあり、クライエントはその中から好きなものを好きなように置いていきます。箱庭を作るうえで大切なのは、クライエントがセラピストに見守られるなかで、安心感を持つて自由に楽しみながら作るということです。



た。また、なんだかすつきりしたような気がする。難しかつたけど慣れてくるとすんなり置ける。という感想も聞かれました。

やはり体験者が気になるのは自分が作った箱庭の解釈だったようで、説明を受けたいとほどの人が言っていました。しかし、「楽しむことで自分の内面を表現できるので、それですつきりしてもらうのが一番の目的だ」と話すとたいていの人は納得し、笑顔で帰ってくれました。

私たちの感想

私たちは普段ゼミの中で箱庭を学習し、実際ゼミ生でペアを作つて体験もしていました。しかし、オープンキャンパス・神大フェスタでは、普段接しているゼミ生の箱庭とは違いました。

体験者の感想

体験者にはあらかじめ「楽しむことが大切です。自由に作つて下さい」と話してあつたためか、楽しかった。という感想が多く聞かれました。

な箱庭に出会うことができました。オープンキャンパスでは、大学を見に来た高校生が多かつたので箱庭は比較的私たちが普段作っている箱



庭に近く、抱える問題点も近いように感じるものがほとんどでした。オープンキャンパスに比べて神大フェスタでは、地域の方（家族連れの方も）から神大の学生や他大学の学生まで幅広い年齢層の方の箱庭に出会うことができました。作る箱庭も今まで実際に見てきたものとは違いました。初めて見るものがたくさんありました。子どもの箱庭は元気あふれる子どもらしい箱庭であり、年配の方の箱庭は比較的現実に近いものを置かれるということを目の当たりにしました。

中でも印象的な体験だったのは、箱庭を見て怖くなつた、という箱庭と出会ったことです。セラピストはクライエントを見守らなければならないのに、箱庭ができるいくのを見ているうちにクライエントとの距離を感じてしまいました。近づいて見守らなければならないと感じているのに近づけない、という体験は初めてでした。実際箱庭が完成してからも怖いという印象が残っていました。

私たちが田代接している箱庭は同年代の箱庭で、これから課題となるものも似ているものでした。しかし、今回の体験で、今までに体験したことのない箱庭を見、先生が実際にクライエントさんに解釈している現場を見ることができました。実際に現場に出たら、箱庭に怖がつたり、戸惑つたりしてはいけないということを学びました。先生を見ていると言葉を選び、クライエントさんが不安にならないようとにかく変化が起きているのかということを伝え、しつかりフォローもしている姿を見られたのでこれからの勉強の参考になりました。また、クライエントさんは自分でも意識していないようなことを新たに発見でき、誰かに今抱えている問題を分かつてもらえた、という感情から気持ちが楽になるのではないかと考え、箱庭の必要性、

が、先生や他のゼミ生の力も借りて体験した方は納得して帰つてくれました。また、出来上がった箱庭を見て、先生に詳しく解釈してもらわなければならぬと感じた箱庭もありました。この方は先生の解釈を受けて納得し、笑顔でしかも「ありがとうございました」と言って帰つていきました。